

平成30年度(2018.4-2019.3)

血液事業概要

埼玉県赤十字血液センター

目次

所長あいさつ	1ページ
埼玉県赤十字血液センターの沿革	2ページ
組織機構図と職員数	7ページ
血液センターの業務	8ページ
施設の案内	12ページ
献血ルームの案内	14ページ
広報・キャンペーン活動	16ページ
研修・見学	18ページ
統計資料	20ページ

所長あいさつ



平素より埼玉県赤十字血液センターの血液事業に対しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成30年度、埼玉県では延べ224,792人の皆様に善意の献血へご協力いただき、血液を必要としている患者様のもとへ安定的に輸血用血液製剤をお届けすることができました。これは、献血にご協力いただきました皆様をはじめ、埼玉県・各市町村、地域の協力団体等、多くの皆様のご尽力の賜物と、心よりお礼を申し上げます。

もとより、埼玉県における血液の使用量は年々増加傾向にあることから、当センターでは平成30年度におきましても献血者確保の強化を図ってまいりました。埼玉県内の各スポーツ団体協力のもと、クリスマス献血キャン

ペーン、世界献血者デーキャンペーン等を開催し、新規献血協力者の増加に努めるとともに、献血者の皆様へは平成30年10月から全国統一で開設されました複数回献血クラブ「ラブラッド」への加入をお願いし、献血会場への再来・年間複数回の献血協力と呼びかけ、76,489人の皆様に「ラブラッド」へ加入いただきました。

また、近年10代から30代の若年層献血者が減少し、40代から60代の皆様に献血を支えていただいている状況が続いており、今後の献血を支える若年層の皆様、そして将来の献血を支える子供たちに向けた献血啓発活動の推進強化に努めました。従来からの継続事業であります小・中・高等学校等にて開催する「血液に関する出前講座」のほか、新たな取り組みとして埼玉県立常盤高等学校と共同で製作した「#彩の国けんけつNEWS」を発行し、クリスマス献血キャンペーンや各献血ルーム等にて配布したほか、彩の国けんけつ大使友寄蓮さんを講師として招き「埼玉県赤十字血液センター親子施設見学会」等を実施し、献血思想の普及に努めました。

埼玉県では今後も輸血用血液製剤の需要が伸びるものと見込まれています。このため、当センターでは若年層への献血啓発をさらに進めるとともに、「ラブラッド」会員の増加と、複数回献血の推進強化を図ってまいります。

県内の輸血医療を支えるためにはより多くの皆様からの献血協力が必要です。今後とも、安全な輸血用血液製剤の安定供給に向け職員一丸となって努めていく所存ですので、引き続き皆様方の力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年7月

埼玉県赤十字血液センター

所長 芝池伸彰

埼玉県赤十字血液センターの沿革

●1964年（昭和39年）

- 8月 「献血推進について」の閣議決定
- 11月 日赤本社から日赤埼玉県支部に移動採血車（愛の献血車）1台配備
- 12月 埼玉県献血推進協議会を設置

●1965年（昭和40年）

- 2月 埼玉県赤十字血液センターを大宮赤十字病院の一室に開設（業務開始）
- 6月 埼玉県赤十字血液センター施設を大宮赤十字病院の敷地内に新築落成



- 9月 「第1回愛の献血助け合い運動」を実施
- 11月 県内の保健所地区すべてに献血推進協議会を設置

●1967年（昭和42年）

- 3月 県内の市町村すべてに献血担当窓口を設置

●1968年（昭和43年）

- 4月 献血相談員制度（1971年4月に献血指導員に改称）を発足
- 8月 不規則抗体スクリーニング検査を開始
- 10月 県内最初の市町村献血組織（川越市献血会）を設置

●1969年（昭和44年）

- 8月 県内での献血者10万人を達成
- 10月 「第1回埼玉県・愛の血液助け合いの集い」を埼玉会館（浦和市）で開催
- 11月 県費補助金により肝機能・血液型検査サービスを開始（1977年3月まで実施）

●1970年（昭和45年）

- 4月 浦和出張所、大宮出張所、東松山出張所、深谷出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1971年（昭和46年）

- 3月 Au（HBs）抗原検査を開始

- 11月 川口出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1973年（昭和48年）

- 8月 血液成分製剤の製造を開始

●1974年（昭和49年）

- 4月 国庫補助金により血液代金自己負担金給付制度を発足（1986年4月廃止）

●1975年（昭和50年）

- 9月 血液製剤用に血液型別カラーラベルの使用を開始

●1976年（昭和51年）

- 8月 Rhマイナス型の献血者登録を開始
- 11月 埼玉県赤十字血液センター施設を県立がんセンター敷地内（伊奈町）に新築移転、旧施設は大宮第二出張所に改称（1983年12月に廃止）

●1977年（昭和52年）

- 4月 異常値を示した献血者に対する生化学検査結果の通知を開始
- 6月 献血者登録制度を開始
- 10月 HBs抗原検出用試薬の製造を開始

●1978年（昭和53年）

- 4月 HBs抗原検出用試薬の全血液センターへの供給を開始

●1979年（昭和54年）

- 3月 県内での献血者100万人を達成



- 4月 HLA抗体スクリーニング検査を試験的に開始
- 7月 研究部（HBs抗原検出用試薬の製造供給・開発研究）を設置
- 9月 岩槻市役所で県内最初の出張（オープン）採血を実施
- 10月 バッグによる採血に全面切替（ビンでの採血を中止）

●1980年（昭和55年）

- 1月 献血手帳から優先還元に関する記載事項を削除

●1981年（昭和56年）

- 3月 第1回学術研修会を埼玉労働会館（浦和市）で開催
11月 県内での献血者150万人を達成

●1982年（昭和57年）

- 4月 献血者全員に対する生化学検査結果の通知を開始、献血手帳から供給記録欄を削除

●1983年（昭和58年）

- 4月 HLA抗体スクリーニング・抗体同定検査をルーチンとして実施、HLAタイピングトレイの製造・供給を開始（熊谷赤十字血液センターに引継ぎ、1997年9月に中止）
7月 県内2つめの血液センターとして、熊谷市に熊谷赤十字血液センターを開設（新築）
10月 県内での献血者200万人を達成

●1984年（昭和59年）

- 3月 県内最初の献血ルームとして、大宮駅近くに大宮西口献血ルームを開設（2001年7月に移転）
4月 大宮分室施設を増改築し研究部を移転
11月 米国赤十字血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

●1985年（昭和60年）

- 11月 英国の血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

●1986年（昭和61年）

- 4月 400mL、成分献血の実施
5月 所沢西武アパート内に所沢西武献血ルームを開設（2001年4月に移転改称）
5月 熊谷赤十字血液センターで抗ヒトグロブリン（クームス血清）の製造供給を開始（2002年3月に中止）
7月 AIDS抗体検査（ELISA法）を開始
9月 血球計数検査を開始
県内での献血者300万人を達成
11月 ATL抗体検査を開始

●1987年（昭和62年）

- 7月 第23回献血運動推進全国大会を埼玉県

（浦和市文化センター）で開催（ご臨席の皇太子殿下・同妃殿下が熊谷赤十字血液センターを行啓）



●1988年（昭和63年）

- 4月 越谷サンシティ内に越谷サンシティ献血ルームを開設（2008年9月 移転閉所）

●1989年（平成元年）

- 11月 HBc抗体検査（HI法）・HCV抗体検査（ELISA法）を開始

●1990年（平成2年）

- 7月 HLA適合血小板製剤の供給を開始

●1991年（平成3年）

- 4月 日赤埼玉県支部内に第三血液センター開設準備室を設置（1993年5月迄）
6月 CMV抗体検査を開始
11月 熊谷成分献血友の会が発足

●1992年（平成4年）

- 1月 埼玉県赤十字血液センターと熊谷赤十字血液センターに骨髓データセンターを併設
5月 大宮駅東口に大宮東口献血ルームを開設、クレアモール商店街（川越市）に川越献血ルームを開設

●1993年（平成5年）

- 4月 日赤埼玉県支部内に第三血液センター開設準備室を設置（同年9月迄）
7月 日高市に第三血液センターの竣工
10月 第三血液センターを埼玉県赤十字血液センターとし、旧・埼玉県赤十字血液センター（伊奈町）を埼玉県伊奈赤十字血液センターに、熊谷赤十字血液センターを埼玉県熊谷赤十字血液センターに名称を変更（埼玉県赤十字血液センターを中心とする3血液センターによる県内一体運営体制がスタート）

●1994年（平成6年）

- 3月 HIV-2抗体検査を開始
- 4月 輸血後GVHD防止のための技術（血液製剤への放射線照射）協力を開始
- 11月 3血液センターのオンラインシステム（血液事業統一システム）が稼働

●1995年（平成7年）

- 3月 医療機関に対する血液製剤直配体制に移行（供給業務委託の中止）

●1996年（平成8年）

- 10月 鴻巣自動車運転免許試験場敷地内に鴻巣献血ルームを開設（2014年4月 改築）

●1997年（平成9年）

- 10月 埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける検査業務を埼玉県赤十字血液センターに集約化

●1998年（平成10年）

- 6月 放射線照射輸血用血液製剤の供給を開始

●1999年（平成11年）

- 4月 献血者の採血基準を改正（献血年齢を69歳に引上）
- 5月 献血者データの全国オンラインシステムを稼働
- 10月 核酸増幅（NAT）検査を導入
プールサイズを500検体でスタート

●2000年（平成12年）

- 1月 希望者に対するHTLV-1抗体検査結果（異常の場合）の通知を開始
- 2月 核酸増幅（NAT）検査における検体のプールサイズを50検体に変更
- 4月 川越献血ルームを移転し、川越献血ルームポケットとして新装開所（2011年10月 移転閉所）
- 6月 埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の一部（血小板製剤等の製造）を埼玉県赤十字血液センターに集約化
- 7月 第1回彩の国血液フォーラムを開催（以降毎年開催）
- 8月 熊谷駅施設内に熊谷駅献血ルームを開設（これを機に、埼玉県熊谷赤十字血液センター施設での採血を中止）

●2001年（平成13年）

- 4月 所沢献血ルームを移転し新装開所（2009

年12月 移転閉所）

- 7月 大宮東口献血ルームと大宮西口献血ルームを統合し、大宮駅献血ルームとして大宮駅構内に新装開所（これを機に、埼玉県伊奈赤十字血液センター施設での採血を中止）
- 8月 埼玉県伊奈赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化

●2002年（平成14年）

- 6月 埼玉県赤十字血液センター施設の敷地内に同センター新館を建設
- 7月 埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化（県内における検査・製造業務の集約化が完了）
同時に、採血業務、渉外業務、管理業務等を含む血液センター業務の県内一体運営体制を確立
安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律が制定（全面施行は1年以内）

●2003年（平成15年）

- 1月 研究部を埼玉県熊谷赤十字血液センター施設内に移転（大宮分室を廃止）
- 6月 越谷サンシティ献血ルームを新装開所（2008年9月 移転閉所）
- 7月 安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律が全面施行
血液製剤の表示事項（「献血」・「非献血」の採血方法の追加等）・添付文書等の改定など
（改正薬事法の施行）

●2004年（平成16年）

- 1月 新鮮凍結血漿の2ヶ月間（60日間）の貯留保管開始
- 3月 携帯メールクラブ受付開始
- 5月 第2次血液事業統一システムへ電算システムの変更
- 6月 新鮮凍結血漿の貯留保管棟を建設



埼玉県赤十字血液センターの沿革

- 8月 核酸増幅（NAT）検査における検体のプールサイズを20検体に変更
- 10月 献血者本人確認の開始
保存前に白血球除去した血小板製剤の供給を開始
- 12月 新鮮凍結血漿の4か月間（120日間）の貯留保管を開始

●2005年（平成17年）

- 3月 新鮮凍結血漿の5か月間（150日間）の貯留保管を開始
- 6月 英国渡航歴のある方の献血受入れ制限措置を開始
- 7月 新鮮凍結血漿の6か月間（180日間）の貯留保管を開始

●2006年（平成18年）

- 3月 携帯メールクラブの全国化
タッチパネル方式による問診回答システムの導入
保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-5）の製造を開始
- 4月 埼玉県伊奈赤十字血液センターを伊奈出張所に、埼玉県熊谷赤十字血液センターを熊谷出張所に名称を変更
- 5月 埼玉センターでの血液製剤の県内一括受注開始
川口駅東口に川口駅献血ルームを開設
- 7月 長野県赤十字血液センターの検査業務を開始
- 9月 保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-5）の供給を開始
- 10月 群馬県赤十字血液センターの検査業務を開始
これまでの献血手帳から本人確認が簡便で携帯性に優れる「献血カード」を全国で導入

●2007年（平成19年）

- 1月 保存前に白血球除去した赤血球製剤の供給を開始
3月末にかけて段階的に初流血除去を開始
- 4月 栃木県赤十字血液センターの検査業務を開始
- 6月 web会議開始
- 7月 大宮駅献血ルームを移転し新装開所（2014年7月 閉所）
- 11月 血小板製剤の有効期限の変更（採血後4日間）

●2008年（平成20年）

- 2月 感染症関連検査を化学発光酵素免疫測定法（CLEIA法）で開始
- 4月 新潟県赤十字血液センターの検査業務を開始



- 9月 長野県赤十字血液センターの製剤業務を開始
越谷献血ルームを移転し、越谷レイクタウン献血ルームとして新装開所
- 10月 研究部を廃止

●2009年（平成21年）

- 3月 糖尿病関連検査グリコアルブミン検査を開始
- 12月 所沢献血ルームを移転し、所沢プロペ通り献血ルームとして新装開所

●2010年（平成22年）

- 1月 英国渡航歴のある方の献血受入れ制限の緩和
- 10月 大宮駅西口に大宮献血ルーム ウエストを開設
- 12月 200mL全血献血者の方にも、血球計数検査結果の通知を開始

●2011年（平成23年）

- 4月 献血の採血基準を一部改正（男性に限り、400mL全血献血が可能な方の年齢の下限を17歳に引き下げ、血小板成分献血が可能な方の年齢の上限を69歳に引き上げた）
- 10月 第35回血液事業学会総会を埼玉県（埼玉会館）で開催（10/20～10/22）



埼玉県赤十字血液センターの沿革

10月 川越献血ルームを移転し、川越クリアモー
ル献血ルームとして新装開所

●2012年（平成24年）

2月 東松山市に埼玉県東松山赤十字血液セン
ター（製造棟）を開設し、検査・製造業務を
移転

茨城県赤十字血液センターの検査・製剤業
務を開始

3月 群馬県赤十字血液センター、新潟県赤十字
血液センター、栃木県赤十字血液センター
の製剤業務を開始

4月 血液事業の広域運営体制の開始
組織改正に伴い、埼玉県東松山赤十字血液
センターが関東甲信越ブロック血液セン
ター埼玉製造所となり、北関東・信越6県
の検査及び製剤業務を実施
伊奈出張所が事業所となり、埼玉県赤十字
血液センターは3部、1事業所、9出張所
体制に変更



8月 献血血液の検査基準の変更(輸血後のB型肝炎
対策として、「HBc抗体1.0以上12.0未満
かつHBs抗体200mIU/mL未満」の献血者
に対する献血制限の実施)

10月 シャーガス病に係る安全対策の開始

●2013年（平成25年）

1月 「献血の同意説明書」の導入
「献血の同意説明書」により献血に伴う副
作用に関する事項を含む4項目について同
意事項を説明し、同意いただいた方の献血
受入れ開始

11月 鴻巣献血ルーム改築のため、一時閉所

12月 献血会場にて、検査目的の献血のお断りと
問診事項への正しい回答で献血していただ
くため、「責任ある献血」の注意表示を開始

●2014年（平成26年）

1月 検査目的の献血者への注意喚起などを収
載した「お願い！」パンフレットの改訂

4月 鴻巣献血ルームを改築し、開所

6月 献血者データの全国オンラインシステム
を更新(血液事業情報システム)

7月 大宮駅献血ルームを閉所

8月 大宮献血ルームウエストを、面積・ベッド
数ともに増加して改装

1検体ごとのNAT（個別NAT）スク
リーニングを開始

9月 血小板の安定供給を目的とした分割採血
を開始

●2015年（平成27年）

3月 伊奈事業所を閉所
分画製剤の販売を終了



4月 さいたま市見沼区に本センターとしての
新社屋を竣工し、埼玉県赤十字血液セン
ターの本部機能を移転
旧埼玉センター（本センター）は日高事業
所と改称

11月 越谷レイクタウン献血ルームを改装

●2016年（平成28年）

4月 献血血液のALT（肝機能）検査による製品
除外基準の変更
【変更前】61IU/L以上 → 【変更後】
101IU/L以上

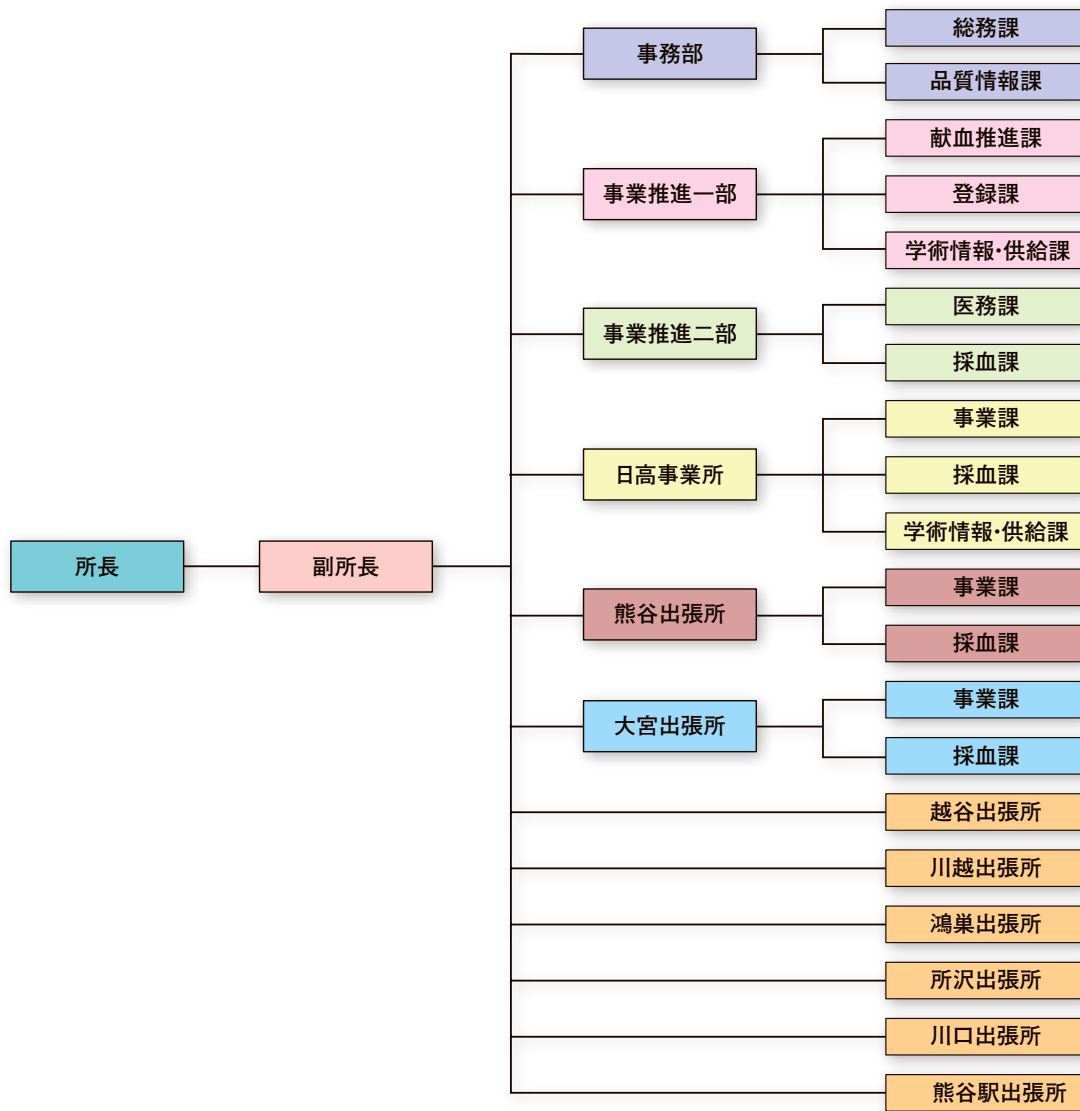
●2017年（平成29年）

4月 平成19年度から平成28年度において、高
校生献血者数が10年連続全国第1位

●2018年（平成30年）

10月 Web会員サービス「ラブラッド」の運用
開始

組織機構図と職員数



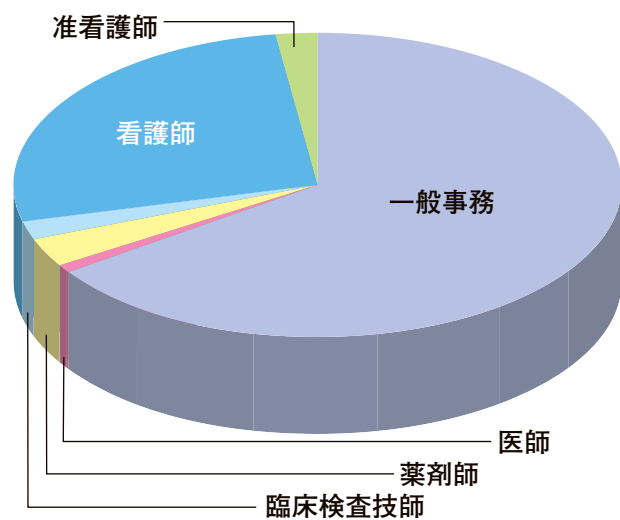
職員数

職種	人数(人)	構成比
一般事務	148	66.1%
医師	2	0.9%
薬剤師	4	1.8%
臨床検査技師	4	1.8%
その他医療職	0	0.0%
看護師	62	27.7%
准看護師	4	1.8%
合計	224	100.0%

平成31年4月1日現在

※構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない

職種別構成比



血液センターの業務

● 献血者の確保

埼玉県赤十字血液センターでは、県・市町村・献血推進協議会・献血推進団体と協力し、献血計画を作成したうえで、県内の事業所や学校、また地域における献血参加を呼び掛け、日々献血される方の受け入れを行っています。

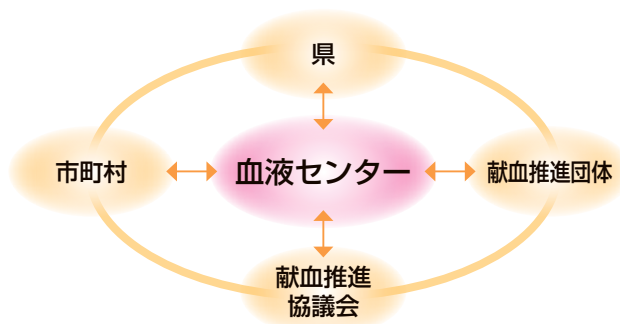
また、医療機関からの要請に対して、安定した血液の供給体制を確立するため、若年層に対する献血啓発や献血協賛企業の推進を図り、より安全な血液を確保するための各種キャンペーンを行っています。その他、Rh（-）の血液型やまれな血液型など、その患者さんにあった血液を確保する必要がある場合には、電話や手紙、Eメールでの献血協力要請を行っています。特に献血の依頼を迅速に行えるよう携帯電話のメールを活用した「複数回献血クラブ」を設立し、そのクラブへの登録も推進しています。



献血ルーム受付



移動採血



複数回献血クラブ（ラブラッド）

平成30年度一般公募により、複数回献血クラブの愛称を「ラブラッド」に全国統一しました。

ラブラッドは安全性の高い輸血用血液を安定的に患者さんへお届けする事を目的として、年に複数回、県内の献血会場での400mL献血または成分献血にご協力いただける方を募集しています。

会員の皆様には血液センターから状況に合わせた献血依頼のメールを送信し、依頼内容に合った献血をお願いしています。また、ラブラッド会員限定のイベントも開催しており、会員の皆様からご好評いただいております。

● 献血依頼メール等の一例

- ・成分献血を安定的に確保するための定期的な配信
- ・献血者が減少し、血液が不足した時の献血依頼
- ・特定の血液型が非常に不足した時の献血依頼
- ・血液在庫状況のお知らせ
- ・イベント・キャンペーン開催のお知らせ

● ラブラッドの特典

- ・平成17年4月以降の検査成績等を見ることができます。
また、グラフでも表示されます。
- ・ラブラッドポイントが貯まります。(全国共通)
- ・20ポイント貯まると次回の献血時に記念品と交換ができます。
- ・会員様対象に開催するイベント(ヨガ教室・料理教室等)に参加できます。
- ・成分献血・400mL献血(平成31年3月1日～開始)の予約ができます。



こちらから登録いただけます
空メールを送信してください。

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーターロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。
※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。

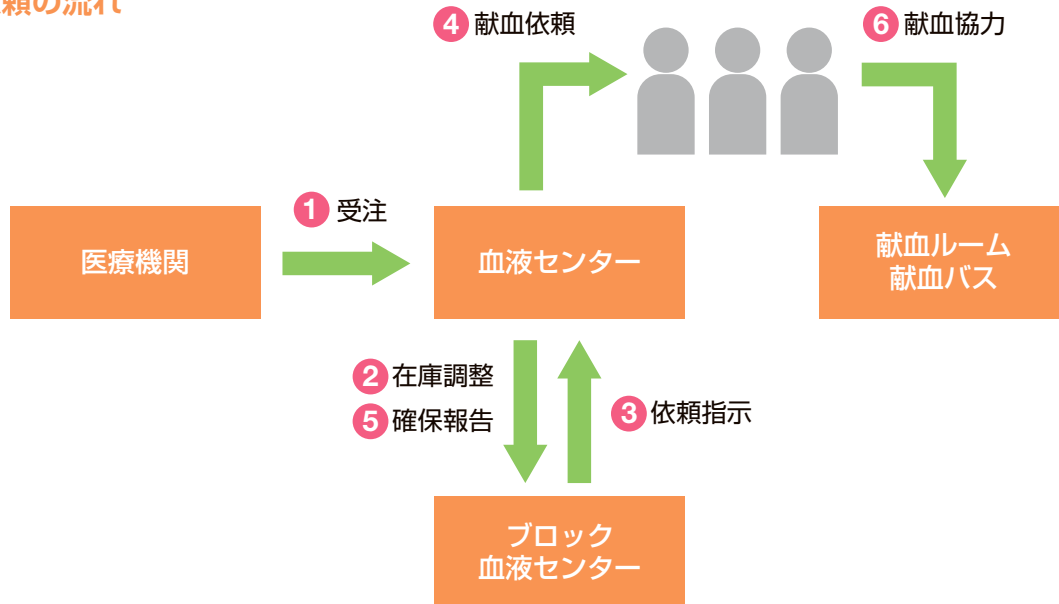


特殊な血液の献血依頼要請

埼玉県赤十字血液センターでは、皆様に献血の申し込みをいただく際に、献血依頼要請の可否について確認しています。この項目にご同意いただいた方に対して、下記のような場合に電話で献血のお願いをしています。

- (1) 輸血用血液の在庫が不足した場合
- (2) Rh(一)の血液の在庫が必要になった場合
- (3) まれな血液が必要になった場合

●献血依頼の流れ



平成24年度から血液製剤のさらなる「安全性の向上」と「安定供給の確保」および効率的な事業運営を行うため、これまでの都道府県単位の事業運営体制を見直し、各都道府県の血液センター単位によるものから、ブロックを単位とする広域的な事業運営体制に移行しました。このブロック化により血液在庫も広域で管理され、特殊血の在庫状況も短時間で把握できるようになりました。また、在庫がない場合にもブロックセンターが複数の血液センターに依頼要請を出すことにより、医療機関に対してより迅速な対応が可能となりました。

● 採 血

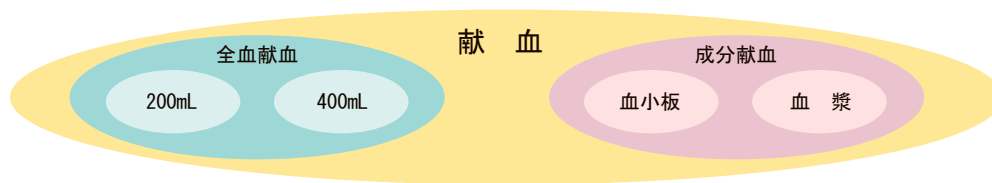
埼玉県赤十字血液センターでは、県内7か所に献血ルームを開設しています。また、県内1か所の血液センターと2か所の事業所及び出張所に配置した移動採血車を職場や地域の献血会場へ配車し、来場された献血者から採血しています。献血には下記のような種類がありますが、それぞれ採血するときには、献血者及び輸血を受ける患者さんの安全確保のために、血色素量・献血歴等の確認のほか、検診医師による血液検査ではチェックできない項目等の問診を行っています。



問 診



採血室



● 供 給

埼玉県赤十字血液センターでは、埼玉センター・日高事業所・熊谷出張所の3供給施設において、各血液製剤を定められた条件下で適切に保管・管理しています。また、県内の3供給施設に血液運搬車を配備し、県内の医療機関に血液製剤を供給しています。医療機関からの発注は、埼玉センターで一括受注され、3供給施設から県内の約500医療機関に必要な血液製剤を24時間体制で供給しています。さらに、全国を7つのブロックに分け、広域的な血液製剤の需給管理体制により、輸血を必要としている患者さんのため、迅速に対応しています。



血液運搬車



供給出庫作業



供給出庫作業

●学 術

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を医療関係者に提供・収集・伝達する役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術課がその業務を行っています。いわば医療のパートナーとして訪問活動しており、輸血関連情報や適正使用に関する情報等の提供、輸血副作用への対応、問い合わせの対応、埼玉輸血セミナーや勉強会の講師などを主な業務としています。特に輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置付けられています。

また、適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すため、平成21年7月には県内医療機関で組織される「埼玉県合同輸血療法委員会」が設置されました。平成31年3月23日(土)には、さいたま市民会館うらわにて「第10回埼玉輸血フォーラム」を開催し、同委員会での活動の成果を報告しました。



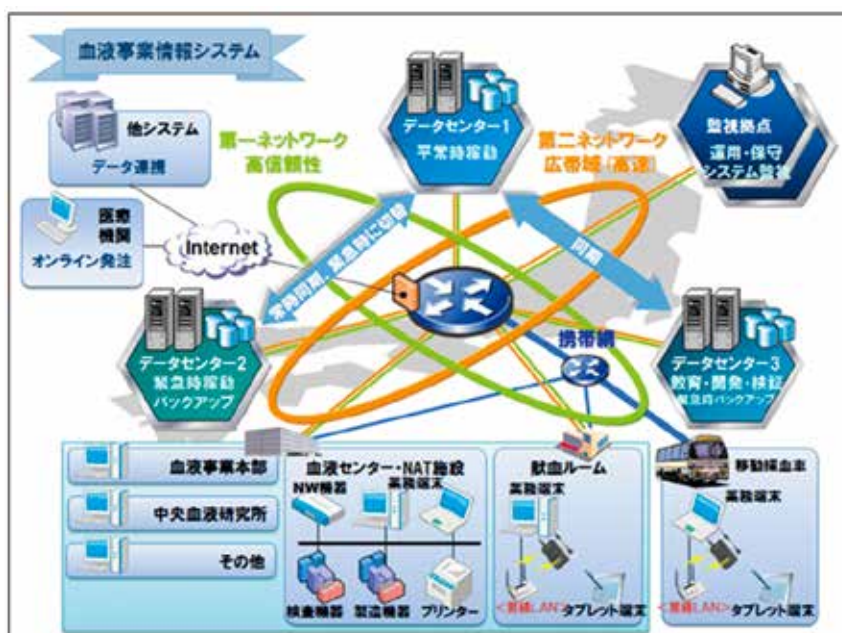
情報媒体の一例



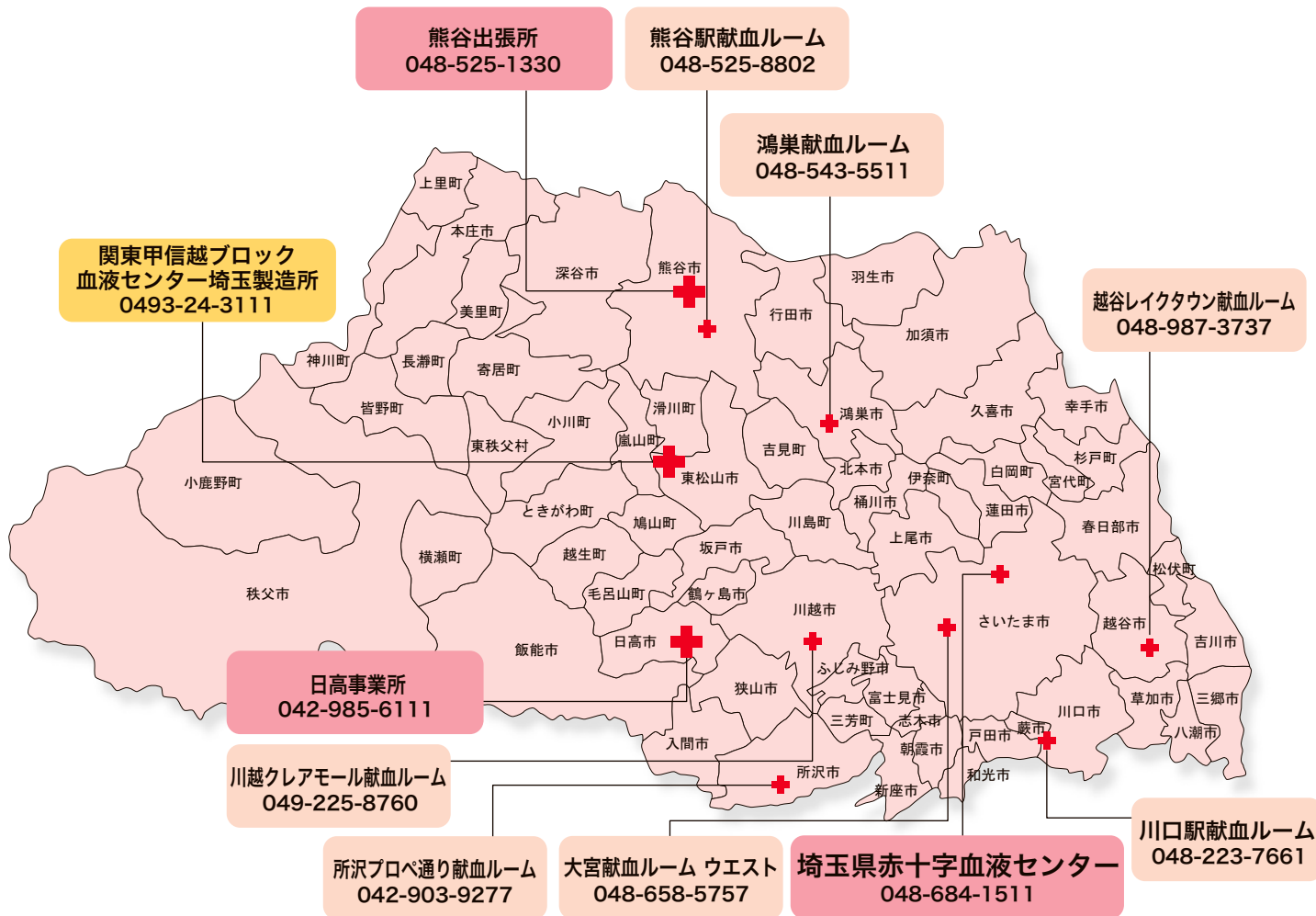
埼玉輸血フォーラム

●情報システムネットワーク

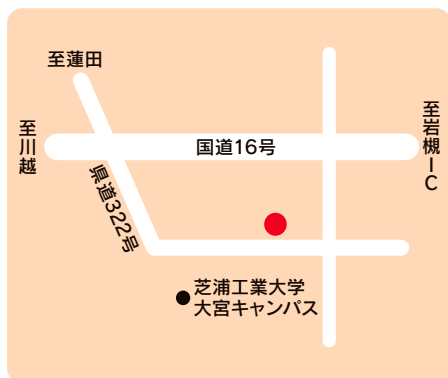
各地の血液センターでは、全国統一のコンピュータシステムを導入し、献血された血液を受け入れてから医療機関に供給するまでの業務をコンピュータ管理しています。また、全国的に整備されたオンラインネットワークを利用し、献血データの一元管理等を行って血液製剤の安全性の確保に役立っています。



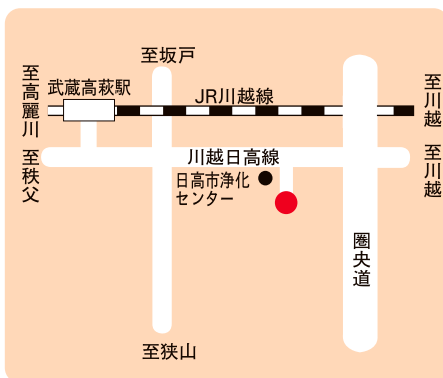
施設の案内



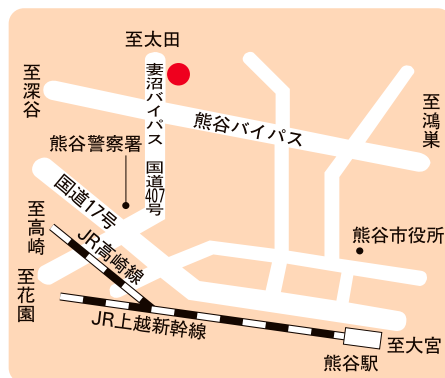
埼玉県赤十字血液センター



日高事業所



熊谷出張所



血液センター



埼玉センター全景

埼玉県赤十字血液センター

- 1 開設年月日 平成27年4月1日
- 2 所在地 337-0003
埼玉県さいたま市見沼区深作955-1
- 3 案内 JR宇都宮線東大宮駅からおよそ2km
048-684-1511
- 4 敷地面積 8,921.75㎡
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建
- 6 延床面積 2,794.66㎡

日高事業所

- 1 開設年月日 平成5年10月1日
- 2 所在地 350-1213
埼玉県日高市高萩1370-12
- 3 案内 JR川越線武蔵高萩駅からおよそ2km
042-985-6111
- 4 敷地面積 9,830㎡
(埼玉県及び日高市有地)
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建 (本館)
鉄筋造 地上2階建 (新館)
- 6 延床面積 2,885.0㎡ (本館)
313.7㎡ (新館)



日高事業所全景



熊谷出張所全景

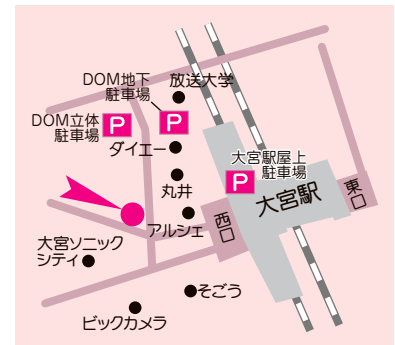
熊谷出張所

- 1 開設年月日 昭和58年7月1日
- 2 所在地 360-0806
埼玉県熊谷市奈良新田398-1
- 3 案内 JR高崎線熊谷駅北口からおよそ6km
048-525-1330
- 4 敷地面積 6,289㎡ (熊谷市有地)
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造
地上2階、地下1階建
- 6 延床面積 2,613.7㎡

献血ルームの案内

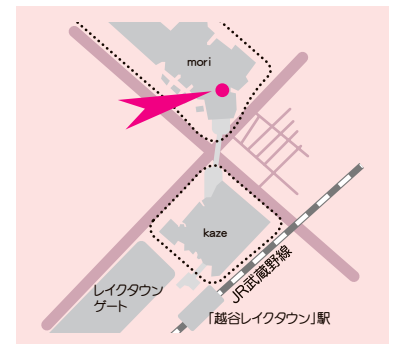
大宮献血ルーム ウェスト

- 1 所在地
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-4-1
DOM PARTⅢビル 5F・6F
- 2 電話
048-658-5757
- 3 受付時間
9:45～18:30
- 4 休業日 年末年始
(臨時開設があります)



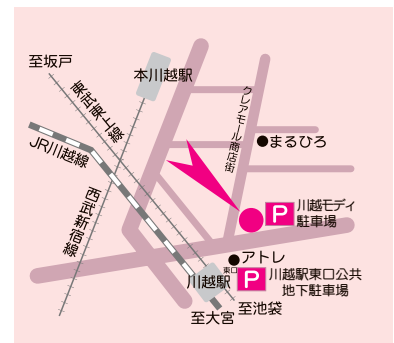
越谷レイクタウン献血ルーム

- 1 所在地
〒343-0828 埼玉県越谷市レイクタウン3-1-1
イオンレイクタウンmori 1F
- 2 電話
048-987-3737
- 3 受付時間
9:45～17:30
- 4 休業日 年末年始(臨時開設があります)



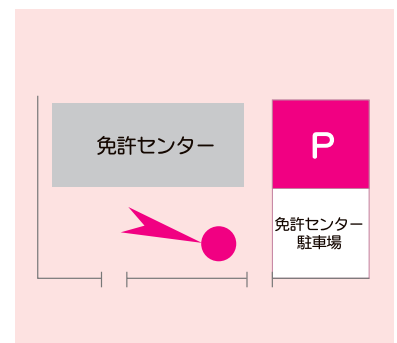
川越クリアモール献血ルーム

- 1 所在地
〒350-1122 埼玉県川越市脇田町4-2
川越モディ4F
- 2 電話
049-225-8760
- 3 受付時間
10:00～17:30
- 4 休業日 年末年始(臨時開設があります)
モディ休館日



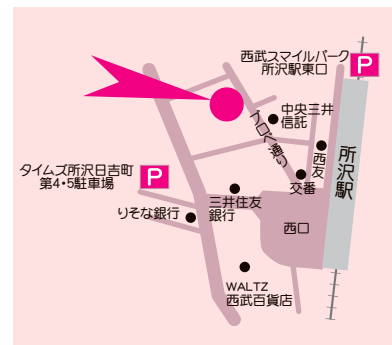
鴻巣献血ルーム

- 1 所在地
〒365-0028 埼玉県鴻巣市鴻巣405-4
埼玉県運転免許センター内
- 2 電話
048-543-5511
- 3 受付時間
8:45～13:00 / 14:00～16:30
- 4 休業日 土曜・祝日及び年末年始
(運転免許センターの休業日)



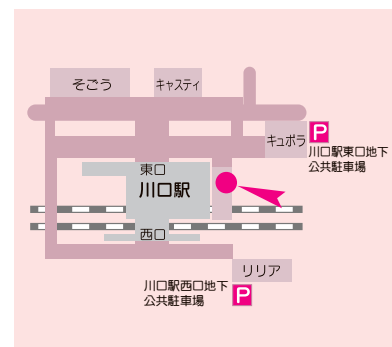
所沢プロペ通り献血ルーム

- 1 所在地
〒359-1123 埼玉県所沢市日吉町10-19
Tokorozawa ex2F
- 2 電話
04-2903-9277
- 3 受付時間
9:45~13:00/14:00~17:30
- 4 休業日 毎週金曜日
※金曜日が祝日の場合は開所
年末年始(臨時開設があります)



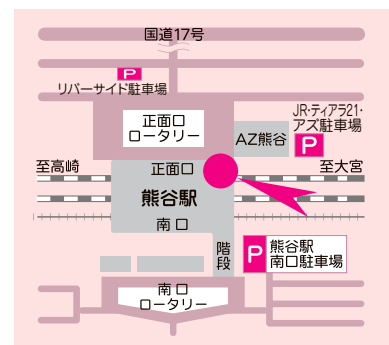
川口駅献血ルーム

- 1 所在地
〒332-0017 埼玉県川口市栄町3-1-24
川口駅東口ビル3F
- 2 電話
048-223-7661
- 3 受付時間
9:45~13:00/14:00~17:30
- 4 休業日 年末年始
(臨時開設があります)



熊谷駅献血ルーム

- 1 所在地
〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波2-112
JR熊谷駅構内
- 2 電話
048-525-8802
- 3 受付時間
9:45~13:00/14:00~17:30
- 4 休業日 毎週木曜日
※木曜日が祝日の場合は開所
年末年始(臨時開設があります)



広報・キャンペーン活動

1 世界献血者デー

開催日 平成30年6月11日（月）～6月15日（金）
 会場 埼玉県内献血ルーム
 内容 世界献血者デー（6月14日）の趣旨に則り献血者の皆様に感謝するとともに、血液製剤を必要とする患者様のために献血が欠かせないことを知って頂くため、期間中献血者の皆様へ彩の国けんけつ大使友寄蓮さんのメッセージカードを配布、世界献血者デー当日には献血応援団キャプテンを務める大宮アルディージャクラブマスコットのアルディが献血を盛り上げるために大宮献血ルームウエストに来所した。



世界献血者デー

2 第13回いのちと献血俳句コンテスト

期間 平成30年6月19日（火）～10月31日（水）
 内容 若年層を中心にいのちの尊さ、愛、友情、助け合い、感動などについての俳句を募集
 主催 日本赤十字社
 後援 厚生労働省・文部科学省・埼玉県教育委員会



第13回いのちと献血俳句コンテスト

3 愛の血液助け合い運動

期間 平成30年7月1日（日）～7月31日（火）
 会場 移動採血車及び県内献血ルーム
 内容 「献血推進ポスターコンクール」最優秀賞ポスターの掲示
 イベント 7月31日（火）「第49回彩の国さいたま愛の血液助け合いの集い」（埼玉会館）を開催し、献血功労者への感謝状の贈呈及びコンクール優秀作品受賞者の表彰（彩の国さいたま愛の血液助け合い運動は平成30年7月1日（日）から8月31日（金）まで実施）
 主催 厚生労働省・都道府県・日本赤十字社
 後援 文部科学省・日本医師会・日本歯科医師会・日本薬剤師会・日本病院会・全日本病院協会・全国自治体病院協議会・日本病院薬剤師会・日本新聞協会・日本雑誌協会・日本放送協会・日本民間放送連盟・日本民営鉄道協会・全国知事会・全国市長会・全国町村会・日本看護協会・日本血液製剤協会・日本労働組合総連合会・日本経済団体連合会・日本製薬団体連合会・全日本医薬品登録販売者協会・全国配置業協会
 協賛 健康保険組合連合会、国民健康保険中央会、全国社会福祉協議会



第49回 彩の国さいたま 愛の血液助け合いの集い

4 クリスマス献血キャンペーン

期間 平成30年12月1日（土）～12月25日（火）
 会場 各移動採血車及び県内献血ルーム
 内容 マスメディア・ポスター・ポケットティッシュによるPR



クリスマス献血キャンペーン

- イベント ○12月23日(日) JR大宮駅西口コンコースイベントスペース・埼玉西武ライオンズ選手によるトーク・ビンゴ大会・献血バスにて献血実施・彩の国けんけつ特命大使「にゃんたぶう」、彩の国けんけつ大使「友寄連」「ピーターパンJr」
○12月23日(日) アリオ上尾・イオンモール羽生 学生ボランティアによる献血呼びかけ及び献血協力者へ記念品配布
- 共催 日本赤十字社埼玉県支部・埼玉県学生献血推進連盟
後援 埼玉県・さいたま市
協力 埼玉西武ライオンズ・埼玉県青年赤十字奉仕団連絡協議会・アリオ上尾・イオンモール羽生・JR大宮駅

5 はたちの献血キャンペーン

- 期間 平成31年1月1日(火)～2月28日(木)
会場 各移動採血車及び県内献血ルーム
内容 マスメディアやHP及びSNSによるPR
献血ルーム及び献血バスにて献血を実施した新成人を対象に県が作製した記念品を配布
共催 埼玉県



はたちの献血キャンペーン

6 3.11キャンペーン～親子で学ぼう、今皆が出来ること「防災・減災・献血」～

- 開催日 平成31年3月10日(日) イオンモール羽生
会場 イオンモール羽生
内容 彩の国けんけつ特命大使「にゃんたぶう」、彩の国けんけつ大使「友寄蓮」によるステージイベント・着ぐるみけんけつちゃんによる献血広報活動・献血クイズ・『非常食展示、簡易トイレ展示、赤十字活動パネル展示、ナース服・救護服試着体験、献血』シリーズ・献血バスにて献血実施
協力 イオンモール羽生



3.11キャンペーン

7 卒業献血キャンペーン

- 期間 平成31年2月1日(金)～4月30日(火)
会場 県内献血ルーム
内容 3月に卒業する県内の高等学校へチラシを配布し、そのチラシを持参いただいた献血協力者へ記念品を進呈
共催 埼玉県・埼玉県教育委員会



卒業献血キャンペーン

研修・見学

1 臨床研修医対象研修

目的：輸血を行う立場にある医師を対象とした血液事業に対する理解の向上

埼玉医科大学 臨床研修医

4月9日(1名)・4月16日(1名)・6月11日(1名)・8月13日(1名)・8月27日(1名)・10月1日(1名)・
10月9日(1名)・10月15日(1名)・11月12日(1名)・11月12日(1名)・11月26日(1名)・12月10日(1名)・
12月25日(1名)・1月10日(1名)・2月12日(1名)・2月25日(1名)

埼玉医科大学総合医療センター 臨床研修医

8月20日(1名)・10月22日(1名)・12月3日(1名)

さいたま赤十字病院 臨床研修医

6月11日(2名)・6月18日(2名)・7月9日(1名)・7月17日(1名)・7月30日(2名)・8月13日(1名)・
8月27日(2名)・9月10日(2名)・9月18日(2名)

深谷赤十字病院 臨床研修医

11月12日(1名)・12月3日(1名)

参加人数合計：39名

2 学生対象研修

(1) 埼玉県学生献血推進連盟“赤い絆”新規加入者宿泊研修

目的：学生献血推進連盟新規加盟者を対象とした献血についての基礎知識の取得、学生献血推進連盟OB・OGの講演にて活動意義の理解やモチベーション向上を図る。

9月6日(木)・7日(金)

参加人数合計：51名

(2) 学生献血推進リーダーの集い

目的：各地域センターでの若年層献血者確保に対する取り組みやキャンペーンの報告並びに情報の共有を図り活動の幅を広げる。

8月30日(木)・31日(金)

参加人数合計：3名



学生献血推進連盟新規加入者宿泊研修①



学生献血推進連盟新規加入者宿泊研修②



学生献血推進リーダーの集い①



学生献血推進リーダーの集い②

3 学生を対象とした講座

目的：将来の献血を担う若年層を対象とした献血の重要性の伝達

4月20日(金) 関東福祉専門学校(生徒74名・教員3名)
6月 2日(土) 朝霞市立朝霞第六小学校(生徒144名・他36名)
6月25日(月) 新座市立栗原小学校(教員18名・他8名)
6月30日(土) 浦和学院高等学校(生徒960名・教員30名)
7月 5日(木) 蓮田市立平野中学校 (生徒121名・教員15名)
7月 9日(月) 志木市立志木第二小学校(教員3名・他58名)
7月13日(金) 春日部市立備後小学校(生徒43名・教員4名)
7月17日(火) 埼玉県立児玉高等学校 (生徒119名・教員14名)
10月18日(木) 埼玉県立鴻巣高等学校(生徒278名・教員17名)
10月26日(金) 鴻巣市立小谷小学校 (生徒33名・教員6名・他21名)
11月 2日(金) 春日部市立武里南小学校 (生徒83名・教員4名)
11月12日(月) 川口市立仲町小学校 (生徒17名・教員25名・他18名)
11月15日(木) 寄居町立男衾中学校・寄居町立男衾小学校 (教員6名・他40名)
12月13日(木) 春日部市立江戸川中学校 (生徒23名・教員3名)
1月10日(木) 埼玉県立大宮東高等学校 (生徒355名・教員20名)
1月23日(水) 埼玉県立越谷特別支援学校 (教員17名・他11名)
1月25日(金) 朝霞市立朝霞第九小学校 (生徒47名・教員3名・他5名)
2月14日(木) 春日部市立上沖小学校 (生徒150名・教員10名・他5名)
2月18日(月) 春日部市立川辺小学校 (教員23名・他3名)
2月21日(木) 埼玉県立川口北高等学校 (生徒351名・教員16名)
3月13日(水) 埼玉県立熊谷農業高等学校 (生徒517名・教員10名)
参加人数合計：生徒3,315名 教員・他452名



朝霞市立朝霞第六小学校



春日部市立備後小学校



埼玉県立熊谷農業高等学校

4 献血協力団体における献血研修会

目的：献血協力団体を対象とした献血の現状報告や健康や献血に関する知識の共有

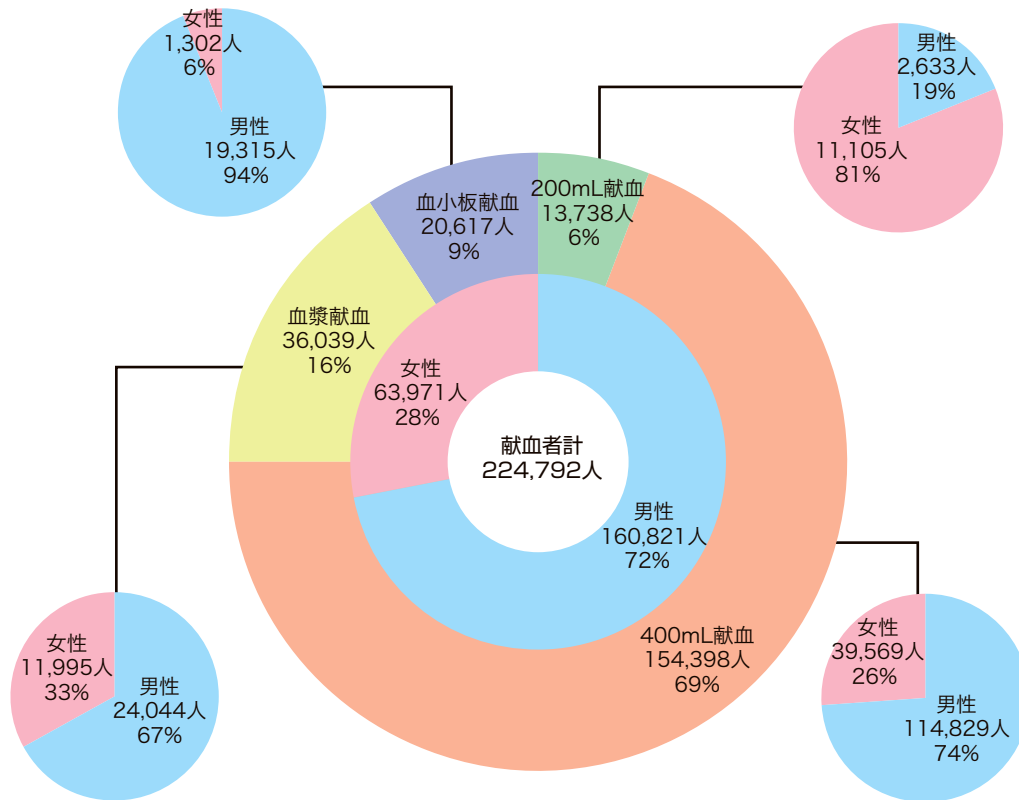
5月16日(水) 埼玉県化粧品工業会 (72名)
12月 3日(月) 天理教埼玉教務支庁 (30名)
参加人数合計：102名

5 大学生に向けた研修会等

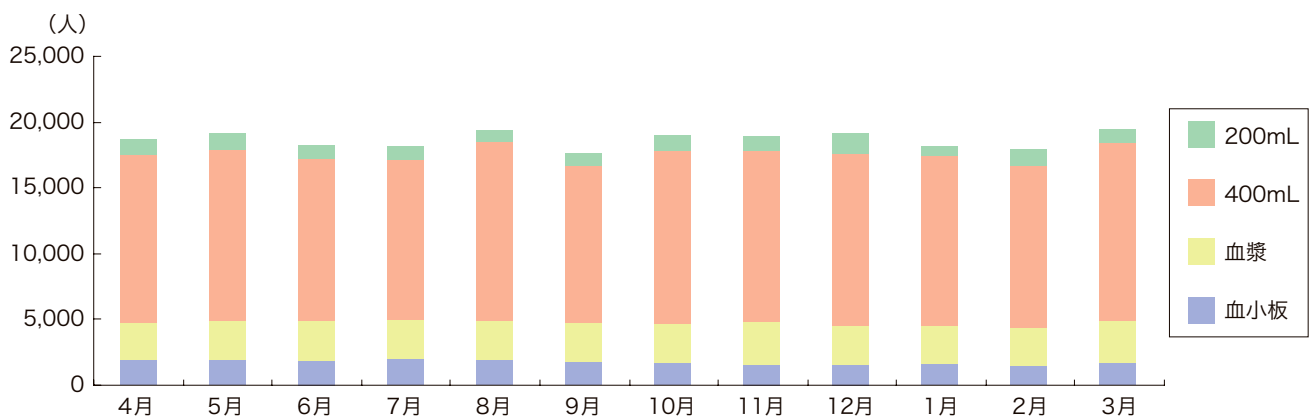
跡見学園女子大学 インターンシップ・研修会
日本薬科大学

統計資料

1 献血種類別献血者数



月別献血者数



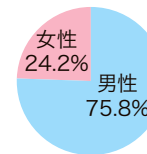
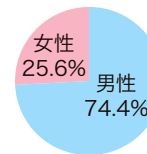
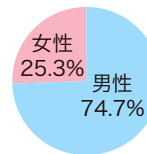
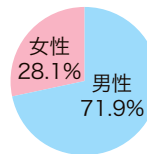
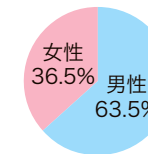
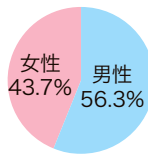
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	224,792	18,815	19,216	18,304	18,229	19,431	17,711	19,080	19,036	19,209	18,220	17,984	19,557
200mL	13,738	1,295	1,286	1,046	1,042	918	1,033	1,210	1,206	1,601	755	1,282	1,064
400mL	154,398	12,802	13,064	12,405	12,259	13,595	11,904	13,191	13,047	13,150	12,975	12,369	13,637
血漿	36,039	2,841	2,979	2,997	2,978	3,022	3,037	3,013	3,241	2,921	2,927	2,891	3,192
血小板	20,617	1,877	1,887	1,856	1,950	1,896	1,737	1,666	1,542	1,537	1,563	1,442	1,664

2 年代別献血者数

16~19歳 14,510人 6.5%	20~29歳 31,114人 13.8%	30~39歳 36,235人 16.1%	40~49歳 66,512人 29.6%	50~59歳 55,504人 24.7%	60~69歳 20,917人 9.3%
---------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------

(人)

男性	16~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計	
	8,174	200mL	19,756	200mL	26,068	200mL	49,688	200mL	41,274	200mL	15,861	200mL
	2,152	400mL	123	400mL	63	400mL	96	400mL	105	400mL	94	400mL
	5,757	血漿	16,811	血漿	19,324	血漿	34,832	血漿	27,765	血漿	10,340	血漿
	189	血小板	1,479	血小板	3,521	血小板	7,498	血小板	7,578	血小板	3,779	血小板
	76		1,343		3,160		7,262		5,826		1,648	



(人)

女性	16~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計	
	6,336	200mL	11,358	200mL	10,167	200mL	16,824	200mL	14,230	200mL	5,056	200mL
	4,194	400mL	1,660	400mL	1,144	400mL	1,820	400mL	1,614	400mL	673	400mL
	1,968	血漿	7,668	血漿	6,324	血漿	10,969	血漿	9,313	血漿	3,327	血漿
	167	血小板	1,831	血小板	2,386	血小板	3,474	血小板	3,081	血小板	1,056	血小板
	7		199		313		561		222		0	

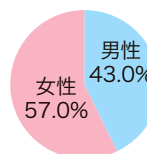
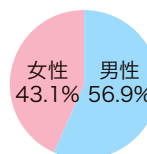
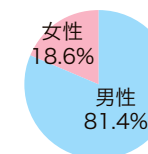
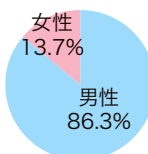
3 職業別献血者数

公務員 27,179人 12.1%	会社員 129,157人 57.5%	学生 20,613人 9.2%	その他 47,843人 21.3%
-------------------------	--------------------------	-----------------------	-------------------------

(人)

男性	公務員		会社員		学生		その他	
	合計		合計		合計		合計	
	23,444	200mL	105,089	200mL	11,730	200mL	20,558	200mL
	91	400mL	291	400mL	2,117	400mL	134	400mL
	17,782	血漿	74,663	血漿	8,854	血漿	13,530	血漿
	3,182	血小板	16,509	血小板	432	血小板	3,921	血小板
	2,389		13,626		327		2,973	

※構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない

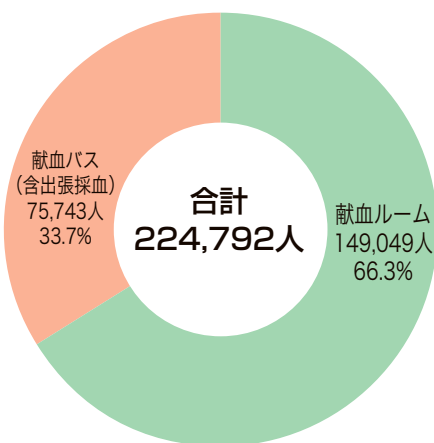
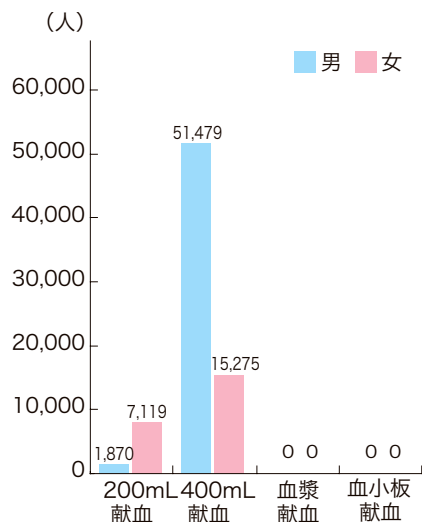


(人)

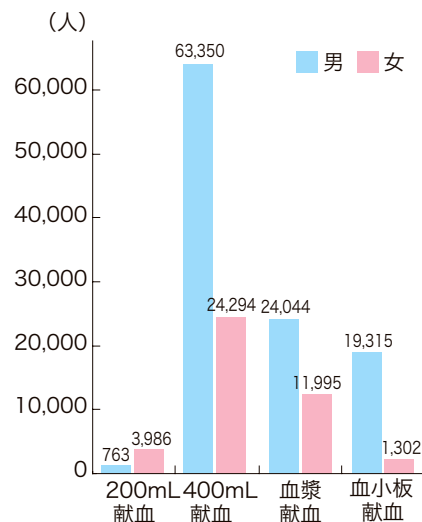
女性	公務員		会社員		学生		その他	
	合計		合計		合計		合計	
	3,735	200mL	24,068	200mL	8,883	200mL	27,285	200mL
	566	400mL	2,965	400mL	4,582	400mL	2,992	400mL
	2,442	血漿	15,875	血漿	3,749	血漿	17,503	血漿
	657	血小板	4,696	血小板	521	血小板	6,121	血小板
	70		532		31		669	

4 受入施設別献血者数

移動採血

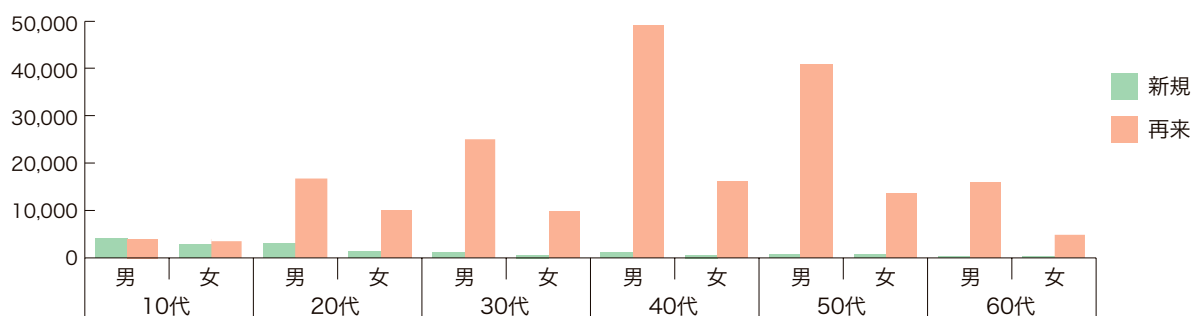


献血ルーム



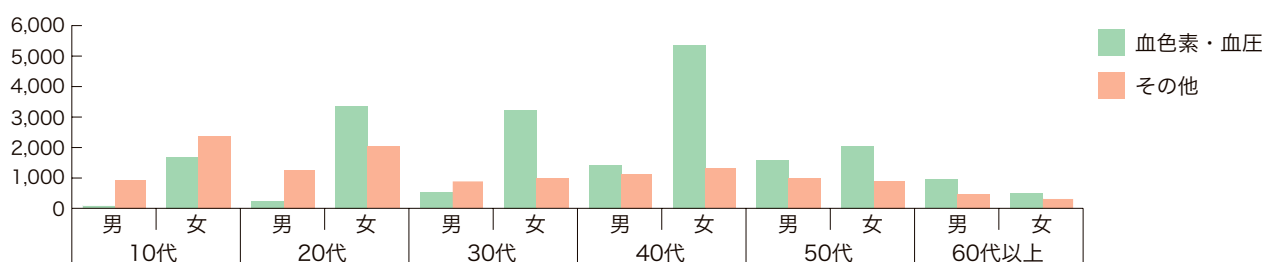
5 年代別新規再来献血者数

	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	224,792	8,174	6,336	19,756	11,358	26,068	10,167	49,688	16,824	41,274	14,230	15,861	5,056	160,821	63,971
新規	16,739	4,234	2,889	3,222	1,443	1,196	598	1,112	720	603	507	115	100	10,482	6,257
再来	208,053	3,940	3,447	16,534	9,915	24,872	9,569	48,576	16,104	40,671	13,723	15,746	4,956	150,339	57,714



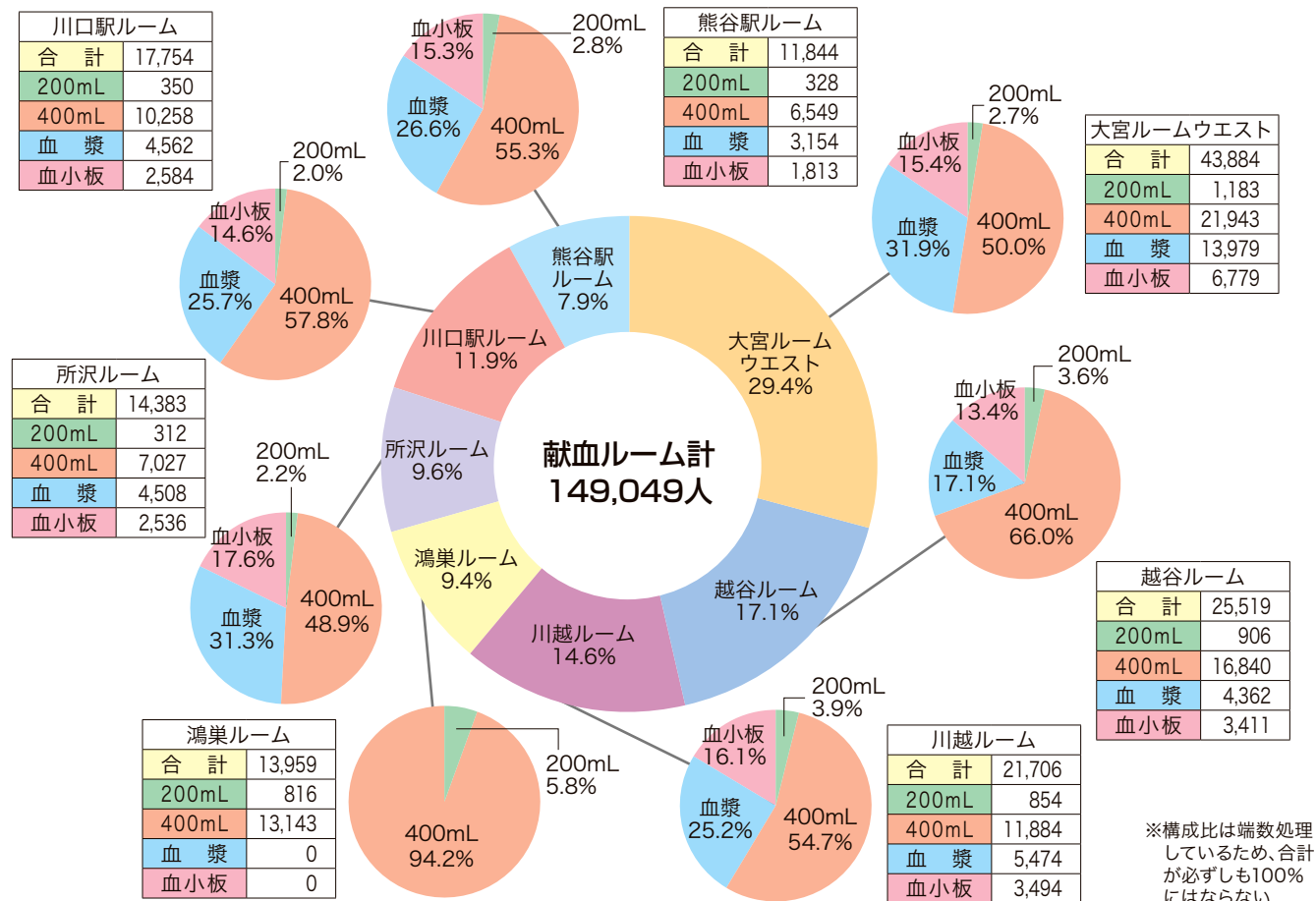
6 献血不適格者数

	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	34,786	1,010	4,066	1,527	5,465	1,429	4,193	2,554	6,685	2,597	2,986	1,433	841	10,550	24,236
血色素・血圧	21,092	78	1,685	244	3,383	529	3,213	1,421	5,380	1,592	2,063	968	536	4,832	16,260
その他	13,694	932	2,381	1,283	2,082	900	980	1,133	1,305	1,005	923	465	305	5,718	7,976



7 献血ルームの受入状況

①献血ルーム別献血者数



②職業別献血者数

	合計	公務員		会社員		高校生		学生		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	149,049	11,627	1,865	74,299	15,426	1,711	2,134	3,984	3,079	15,851	19,073
ウエスト	43,884	3,797	725	21,950	4,731	528	697	1,145	974	4,186	5,151
越谷	25,519	1,848	287	12,898	2,474	278	390	574	492	2,445	3,833
川越	21,706	1,664	242	10,109	2,265	363	472	809	633	2,484	2,665
鴻巣	13,959	723	135	7,310	1,367	105	56	470	214	1,767	1,812
所沢	14,383	1,641	185	6,536	1,345	152	172	380	354	1,742	1,876
川口駅	17,754	1,052	171	9,334	2,082	127	164	345	265	1,808	2,406
熊谷駅	11,844	902	120	6,162	1,162	158	183	261	147	1,419	1,330

③新規再来別献血者数

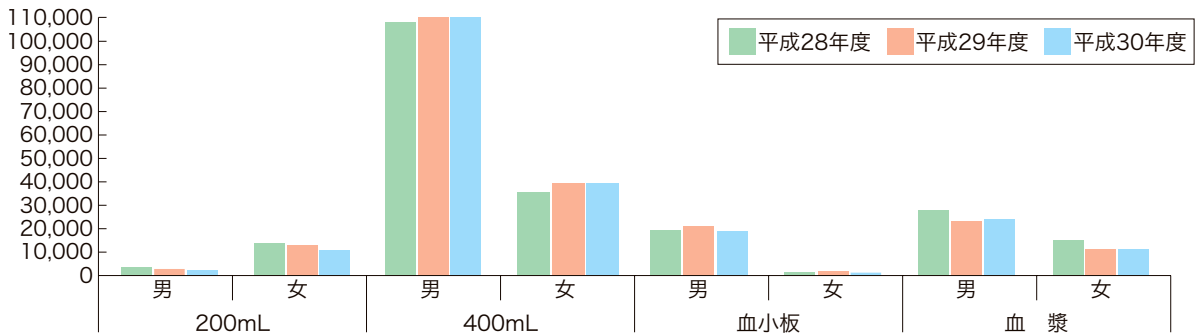
	合計	初回		再来	
		男	女	男	女
合計	149,049	3,456	2,577	104,016	39,000
ウエスト	43,884	596	581	31,010	11,697
越谷	25,519	562	505	17,481	6,971
川越	21,706	514	453	14,915	5,824
鴻巣	13,959	961	361	9,414	3,223
所沢	14,383	260	207	10,191	3,725
川口駅	17,754	359	295	12,307	4,793
熊谷駅	11,844	204	175	8,698	2,767

8 献血者の推移

① 献血種類別の推移

(人)

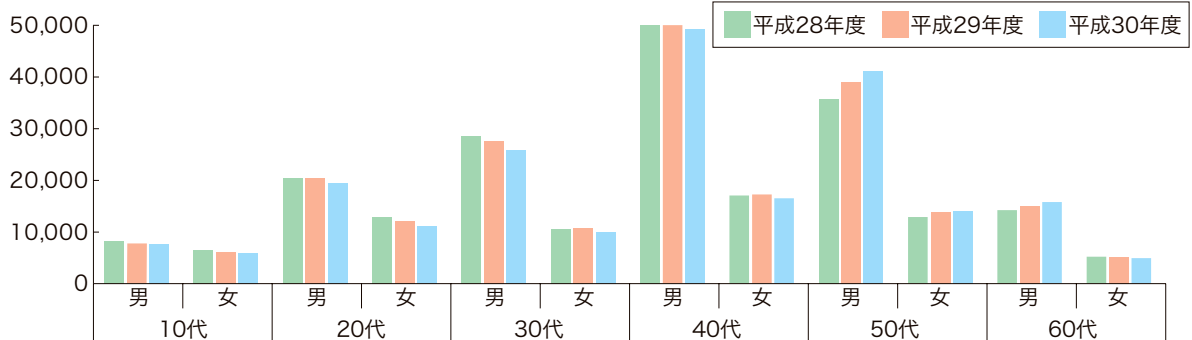
	合計	200mL		400mL		血小板		血漿		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成28年度	225,922	3,357	13,686	108,372	35,628	19,505	1,704	28,249	15,421	159,483	66,439
平成29年度	228,892	2,994	13,393	114,370	39,269	21,856	2,166	23,234	11,610	162,454	66,438
平成30年度	224,792	2,633	11,105	114,829	39,569	19,315	1,302	24,044	11,995	160,821	63,971



② 年齢別の推移

(人)

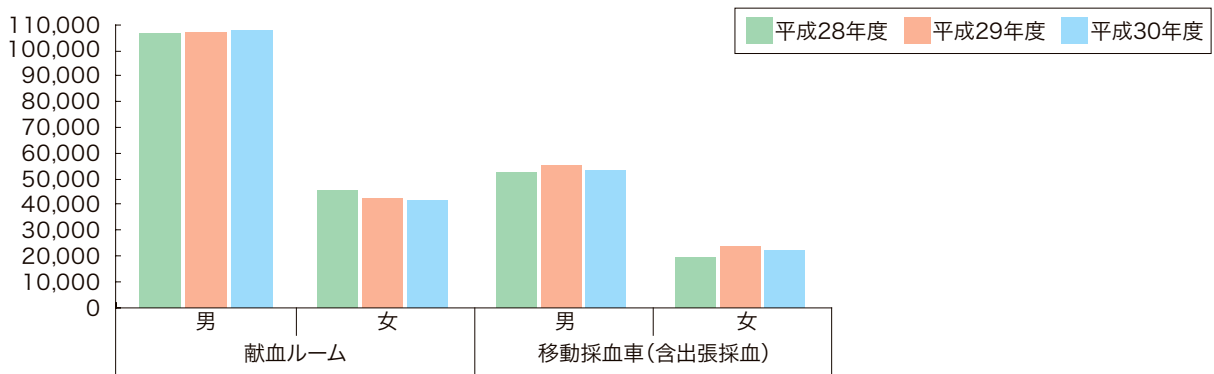
	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成28年度	225,922	8,664	6,666	20,594	13,141	28,728	10,887	51,043	17,275	36,017	13,060	14,437	5,410	159,483	66,439
平成29年度	228,892	8,319	6,339	20,682	12,264	27,719	10,917	51,154	17,560	39,357	14,068	15,223	5,290	162,454	66,438
平成30年度	224,792	8,174	6,336	19,756	11,358	26,068	10,167	49,688	16,824	41,274	14,230	15,861	5,056	160,821	63,971



③ 受入施設別推移

(人)

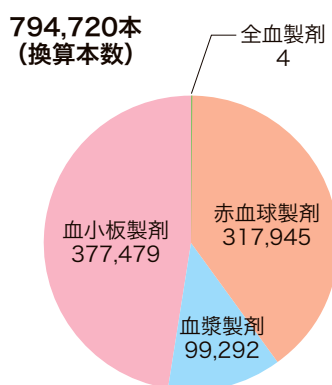
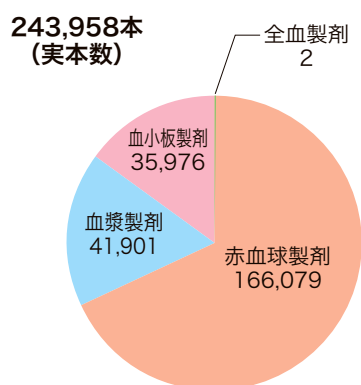
	合計	献血ルーム		移動採血車 (含出張採血)		計	
		男	女	男	女	男	女
平成28年度	225,922	106,600	45,845	52,883	20,594	159,483	66,439
平成29年度	228,892	107,155	42,553	55,299	23,885	162,454	66,438
平成30年度	224,792	107,472	41,577	53,349	22,394	160,821	63,971



9 供給の状況

①血液製剤種類別供給数

	1単位製剤	2単位製剤	成分						本数合計	単位換算
			FFP-480	2単位	5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	2	—	—	—	—	—	2	4	
赤血球製剤	14,213	151,866	—	—	—	—	—	166,079	317,945	
血漿製剤	1,178	32,389	8,334	—	—	—	—	41,901	99,292	
血小板製剤	—	—	—	2	151	32,974	2,000	849	35,976	
合計	15,391	184,257	8,334	2	151	32,974	2,000	849	243,958	

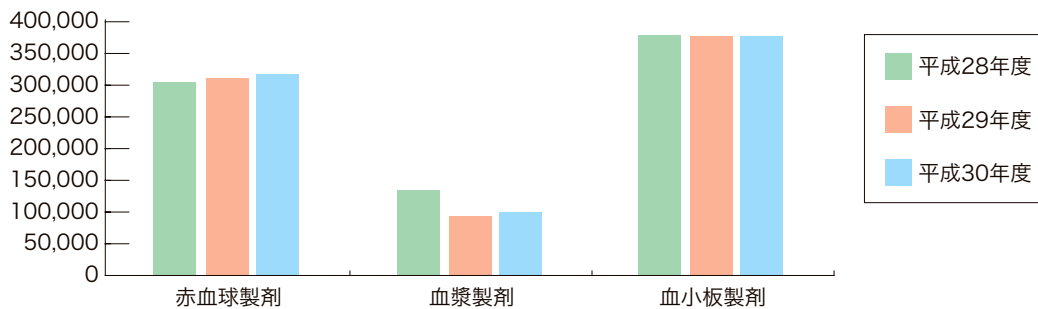


②輸血用血液製剤の推移

(200mL換算本数)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成28年度	822,388.0	6	305,705	136,167.0	380,510
平成29年度	784,174.0	0	311,531	93,906.0	378,737
平成30年度	794,720.0	4	317,945	99,292.0	377,479

※平成29年度に血漿製剤の算定方式が変更となりました。

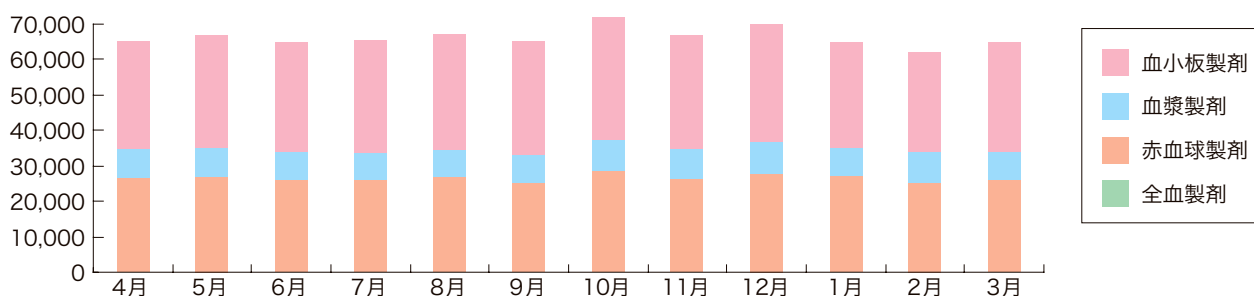


※全血製剤は、値が小さいため省略した。

③月別供給数

(200mL換算本数)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
赤血球製剤	317,945	26,207	27,024	25,992	26,053	26,944	25,031	28,443	26,442	27,676	27,062	25,261	25,810
血漿製剤	99,292	8,734	8,053	8,231	7,929	7,649	8,149	8,710	8,322	8,764	7,784	8,735	8,232
血小板製剤	377,479	30,205	31,825	30,490	31,370	32,645	32,110	34,585	32,330	33,285	29,829	28,075	30,730





日本赤十字社

埼玉県赤十字血液センター

<https://www.bs.jrc.or.jp/kts/saitama/>

